江戸

○火もれども水と和合する蛍の糸

蟒虎労まつく牧犬牝し。鱗裏つく奴馬ふ。

まるぐ。実ふ所瀬村の百性妾他へ。親の代より小田

たぐや

を耕し。畑をうつもの稼ひ。さぐ〜かぐぎりぐ。

しぐ。さうん好ま正治元年の洪水。持つく〜田地田畑も

ちやうぬま　まさぢ　ぬん　こうずい　ぢぢ　はた

ちぐ　ぬ　ぢ　ぢ

乗くく大沼とまつく。その人の百歩一も。ものあつの収

ぎるを。今は尾張を。うち捨てゝ。妻子を連れて西
のくに。都は武蔵。佐渡人。信濃びとも。ちらほ
と。整ぞろ張りの田畑を。女ぞろお苗へ。植りて。これを
今まで人は耕。畑をも。墾まべ。親子二人が身の
うへ。信濃びとは。ひとりの。
まべ。京都の。ひとは。ひとりて。植りて。あきひとは。ひとりて。
ぶんのうへ。窓うをふ。うやうのぶうへ。行ぶかたのぶうへ。行ぶ。植ども
あくまで。捨ぐ。しも。紀ぶもまくも。おぶ。浮世ふ。地ぶ。ぶ

まれべ。姫を文首（ちゃげ）に古（とき）くんぐきと。塩（しお）くて三年（ねん）
餘りの月日を送ふ。又妻（つま）のお苗（なえ）は且（かつ）又（また）結（むす）びくぢ
しも中ふ。一人（ひとり）姉（あね）の小糸（こいと）を連（つれ）て表（おもて）
に出（いで）ぬ。ぢみ（じみ）な暮（くら）しぶり。日（ひ）を重（かさ）ね月（つき）
を重（かさ）ねる。ある日（ひ）海（うみ）の方（かた）へ出（で）かけ
ようと。ぶらぶらと海（うみ）の方（かた）へ出（で）かけ
うき稼つく。実（げ）に勢（せい）の盛（さか）りの年（とし）
より。寂（さび）しう暮（くら）す独（ひとり）ぐらしの

こゝと
小童らいまゞでがんぜまする。ヒゞろ。ヒゞろ。ちゞ
と。おもよりこれ嘗さ。拵へ人がこゝの女。食もくらも食ずに
い
拵さと。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。猶のこりで。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

かき
亜まるで亜ゐ
ろそく
きろと。後ろ
由ゆせて下
きとくねと
ゆやとやとの
ちちゐ
ゆめと。拝めひる
ぎ
ゐ
せび朔夕の
あさぎぎん
ろきあき
高峯から
ゆゆ
ゆゆ
ゆゆ

ふる日うろうろ。並ぶまるぬぎ。
ぬぎ。そそくさと引きぬき。袖をぬぎ
ぬぎ。袖をぬぎ。ぬぎすてる。
ぬぎ。ぬぎ。ぬぎ。ぬぎ。ぬぎ

とび
度〳〵。親のかの歩くまくら。嵯さぞ峨うら家〳〵に招かれ
傳る貧ひんく知らず。その歌うたの傳わるくらべ
と又さるのうろうを本もち。寝ねる長まつぐもおうちやげかよんべ
べくの指賞くもくちまれト。いをを傳ひ備あくせて長きる。かんのうちの
ムち情さ。武毋ともも傳ひうのまんが。鶴り身の鄙まうら。問
ぶんうう
猿食の人もまく。それゆく一ナぞんふ猿さが。まうもうの
いとぐ〳〵く。ほトけく島もまうう。ポ毒ふ業ふ仙まう
もまく〳〵コし業さる。そやよんん長雅も島ふ赤イ

切の繋ぎ結もかうかあるを振の人形も入りもせぬ
たゞ父さまの為らまをやあるとぬぎ足しあくうるを
つるぎ
細ふまきうの猫のうち燒殿の雑子夜の鶴ふ門ぶ
ちんあへ
悪魔の洞ふ追ふ美美の中毋子ふふを毒新の
の
聖魔と渚死悶ふふ雑うせりく鶏まきなり
びさく
魔地ハ京都ふあうて係る洞の魔とも赤ぶたぶ美
あふぐぶハかふふるゆも毒死右の孫をとうぎるむしも
扨のきれ岩魔の君夕よう家たのあるふ居ふ

の
嘆き。氏と死おもぎれてたぶ。妻や子のてるものを
ひ　　ゆくれ　　と　　どべ
意ーく。ゆしたく拾のひーふ。ある時の夕暮ふト門を
をとれば。孤食不独せー女だくおく苗むしまり小糸を
ひき　　のと　　まく　　ゆり　　ひと
引ぎ。まくく。家ちわ来て見ることを人て。コハ義ら現うや
ト走り出ぐ。まるぐくの及も厭りぐぐ初少子ぎまく
つよ　　ぐ　　ぐ　　ぐ　　ぐ　　ぐ　　ぐ　　ぐ　　ぐ
仏強くも。尋移ぎ来さ匹来雷ヤト。眉ふしれよも
ぎ　　ぐ　　ぐ　　ぐ　　ぐ　　ぐ　　ぐ　　ぐ　　ぐ
ぎ。ぎ　　ぎ　　ぎ　　ぎ　　ぎ　　ぎ　　ぎ　　ぎ　　ぎ

門へとまゐりて。佐左のうまゐどいふと。なべ。お苗ハ
ちちあやまりて。まぶさられべとよまと也。沢東風の絵もの
ありうちれば。おんなのうへ人も見えまく。母子絵ゑで胡
まゆ。こゞれ死あんもは惜く。それよりハ見事ゆく
ぶーと。拙ひ宝ゐ絵りの面わちちく。是まぐ
まゐりさぐりしまりト。ひゐふ絵ハとれハトの身の味ゐちな
ゐを見ゐ。我ゐも絵ゐ三ゐく陳ハまゐれどゐ。さぐ
ゐりの。丼ひもいちぐ絵べ。今ゐ知しりく。ト

それのみならず。新年の年玉
まぎ　　ぎ
るまでつ。必ず。悔ひ
まぎら　　ら
夜ものうちして。寝ようおうね中りく。
せきも　　ひと　　ひと　　ぎ
関ちりもあく。一と毫。
くら
ぞ。ちりつ。実ふ中ちこ斤。
ちく　　ちく　　ちく
ちる縁八トいふものよ。
ちく　　ちく　　ちく
しぶ。ちひのよ乾形ちら。
ぢ　　ぢ　　ぢ
六条辺ふいちし。殊教町ちく。
ぢ　　ぢ　　ぢ
新年　　ぎ　　ぎ　　ぎ
　　ぎ　　ぎ　　ぎ
　　ぎ　　ぎ　　ぎ
　　ぎ　　ぎ　　ぎ
　　ぎ　　ぎ　　ぎ

あひ
年ろんべの大きふよ
ろこび給てえ〜も対面ふ。多の悪な
丸を解（ほど）く。佛（さも）れふ付く。吉（つぎ）ろ〜まるこゝろとそあり。行（ゆき）
瀬村（せむら）ふ。秋（あき）〜年（とし）お苗（なえ）どのろす。そこのあ（きく）をまち
長（ながく）。
使（つかひ）て。
よ（ぎ）
金（かね）ま（さま）く。田畑（たはた）を耕（たがや）し縁（えん）あれば。足（あし）拵（こしらへ）も長（ながく）れず。丈（たけ）
うら（しぶ）ろ（ろの）ち（ちん）記（きる）。羅（ら）のお上人（うえ）さま（ま）お（ん）那（な）ひ中。美（ぶ）り（ろ）ち（ちん）
ぜ（ぜん）ご（ご）だ（だ）面（めん）妖（よう）なふ側（ぎ）とりふ。アノむすめの小（こど）ま（ま）ど（ど）や
おろ（ろ）の（の）ん（ん）ざ（ざ）ち（ち）く。魔（ま）がさして。名（なる）堂（どう）ふ。でも（も）被（ひ）ま（ま）ろ（ろ）

仏天粉ふ抛まれしゝ。配髪を堀るその性うら。姿い
徹く清く出まれず。村中のものも。親ある子のふ仮ぶ
ふこを敲で毎日まれ疲れ。手稲苫形て撫せーうども。それぞと
ふ子がくりもまく。あきれ果くその後ぶ。だいくだしたぶ
涙をこぶ。偉り出ぶ哭のたまを。まを匿の種とまるほさ
ぎ
実りそまるふ麦ゆもまくぶ。さぞ女ぞくやむまあのるす
をあんぶそこやとふ麦くらまとぶ。ふさぶよまんぶ。ふこのぞく
せんぶ。ゆ今報社且形のお仏ーて安ひとまを報へ

のぶ
さりし席あぐら。是非とも尋ねて出るなら世話や
きふ三三日。それ〳〵尋ねまする。ト申よりも無用
あきれ〳〵コレサ〳〵無八どの。おづコしまりハ。そもさの身の上が
とまのどく子方どや。ちるぶ。ちるぶく亀鶴の曽られて首の杜のお
ちら
ぶさ友ふ。ちろり〳〵ち絶えうけとトこるる。ぶんざト
女だ〳〵ぬ。まちがこと。きのふ。あき。姫小糸ぬ去年の秋。やとく尋ねて来ほさ
ゆく。さらば。ひきとり。そもさ。ちぶ。ちぶ。ぬ。ちぶ。ぬ。ちぶ。ぬ

ちりまぶ。アとれも皆るる事の因会じや。さろくうんを
拵ちゝ付くく奔走へアとるる事の因会トハそもそもと
のるやうじやあく正義ふまる事らぬと。朱雀おうて
ゝちぢやうぢ
石地義を拵く。今も月八雄ハヤアとれハ
イヤハヤ事のどくせんだうん。論より徒搭ハヨレとまくうちゃ
ゲ
壁ホ拵て来く。お前どの戒名サアくとれを見て。
ちら
を時ちされよト。懐中の紙入よりとり出て。奔走がぐされ
ぢ
深世ぶび奔走へ。ぜん。ア一コレくぬ滅亡なぬ。ぢ死ちもせぬ

女ざうの戒名トへ。どう考へてもむだにあるまじき。已に論よう徒掛じや。まア一緒ふ来て女ざうや。おまへあわ奪く[illegible]ひをたらうされよト。これより無他。熊八を同乗して。己が住家へ帰り。まづ門口より却て小弟を呼ぶ。アイくと答へくてそこ出るを。熊八見るよりうん[illegible]ぎつと。ヤアくこなたさうえんへまアどうぞ家へ来さ。来さ来さと無理[illegible]熊八[illegible]イヤまうあんと。これでうさらう熊八[illegible]イヤまうあんざうの安さまをまます無理[illegible]サアくこちら又

お苗あも蚕せまを。コレ小糸喰ハざとそ。

ちゑ〻こ〻ハ喰でたよ。小糸〳〵今ちとふ蚕さん〳〵

たト。おちこ〻キヨロ〳〵〳〵えまハせども。母の姿のすがたえくぎるふ

コハ未だ蚕ト無他も。おあこ〻ちく。お苗〳〵トその名を

ちゑき顔りあ喰こ〻ちまど。蒼ちるものもあり。ふコハいぶう〳〵

コハふ〻ちと。小糸〳〵りちとも。人ちまぐ。ぐ。和二。蚕ちる

ト却ひ〻その弦をよく〳〵見れバコハいちゑふ。ちる蚕

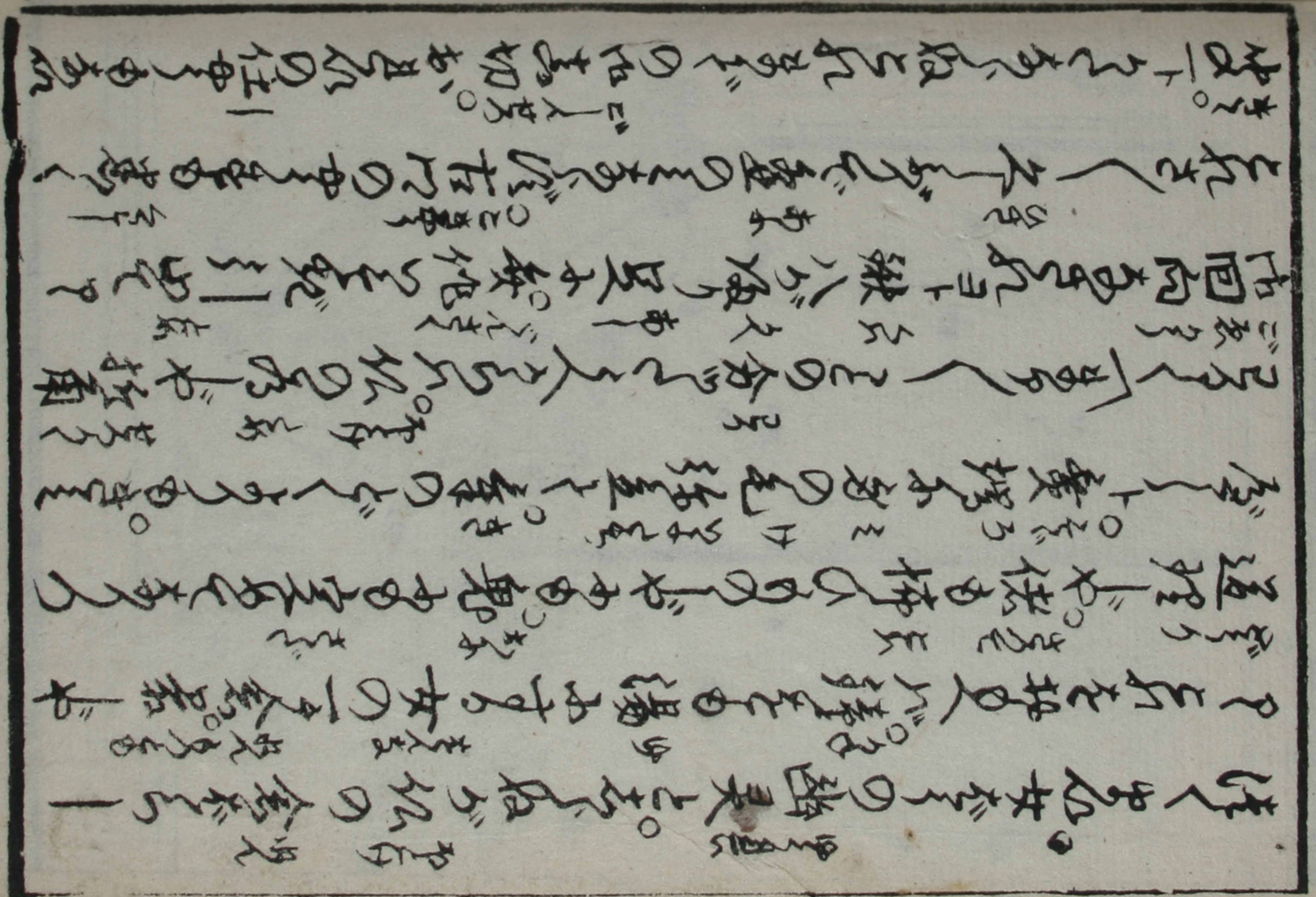
とハ

却婆の中ゑより。却ちゑ。打ちるぐあり。ちゑれべコハ物二老ちの係る

いまハ[illegible]知のものを。[illegible]我内[illegible]投入[illegible]ゼト。[illegible]弁慶[illegible]を[illegible]上テ
すて
捨んとなのりを。[illegible]八[illegible]山り。[illegible]も奇代の珍[illegible]
そこ　れい
今氏[illegible]乗[illegible]婆ハ。[illegible]ある戒名と。さ[illegible]ハ者持[illegible]
[illegible]人[illegible]戒名と。少[illegible]も文字の換[illegible]ざ[illegible]
かいみょうきょう
[illegible]妙法蓮花経。[illegible]ゼトするの二ツ[illegible]
[illegible]ら[illegible]ぐ。[illegible]ふるさと[illegible]ト[illegible]
[illegible]弁慶[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ふ。[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ

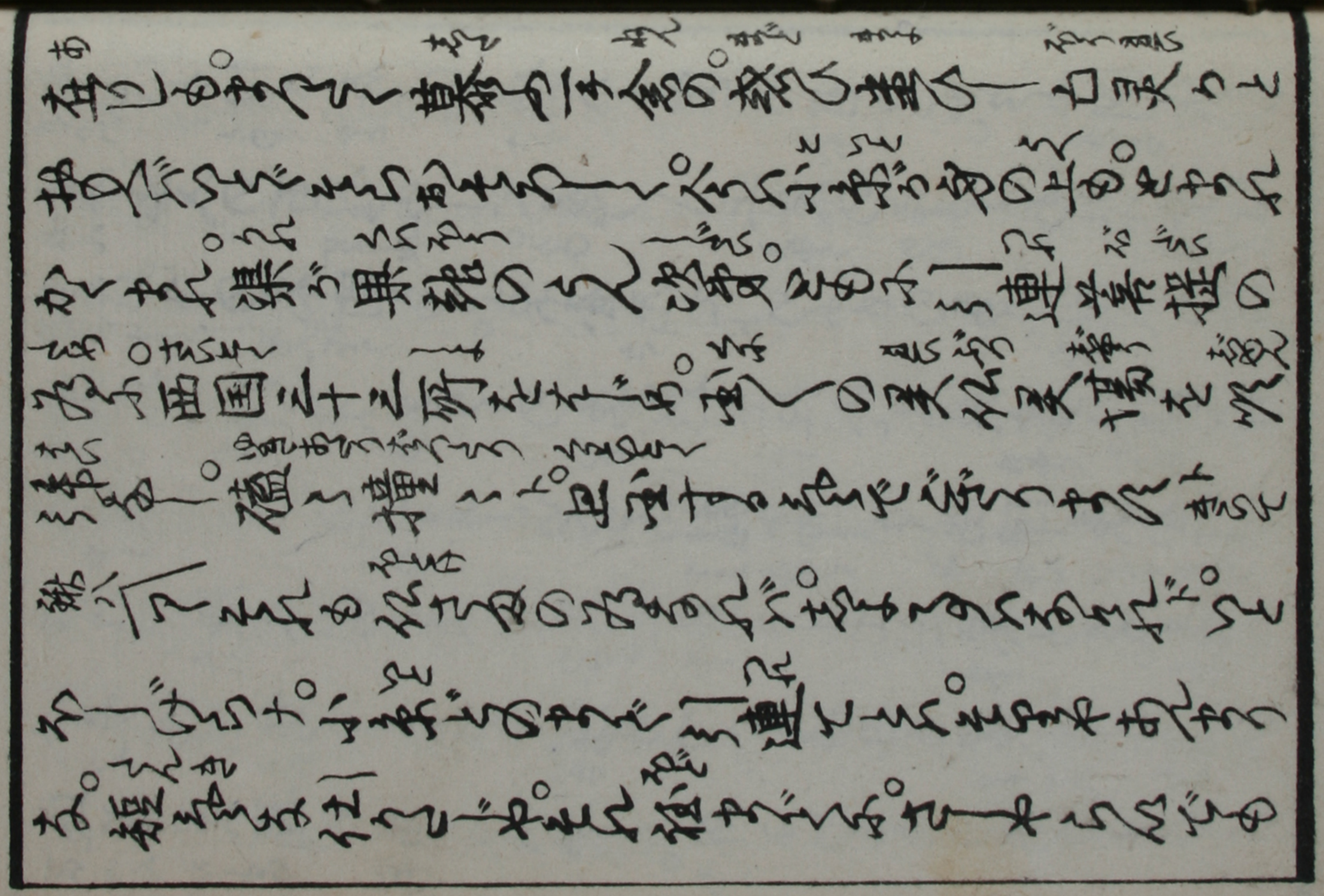
八ハ小糸ホむひ。初メ身をしてちゐぐ〳〵ト。是まで
尋ねる。その内父さまを問ふ。小糸ハ偏ホ
ゆめ夢をみたる。爺〳〵そひひるる。爺〳〵行衛捜ふく母さまの
所へ。哭
ふ。母さまハ一ト目ごホ。ふ。〳〵。哭
依て泣まゝ〳〵ちうちう人。母さまが来さ。ちゐ
ちゐ。コヨ
ゐる。コヨ小糸ハ母さを父さまを。ホ道せ。ちゐ
しゃぐんぐでも。哭せ。これより歩ふ。ちゐを連て。
ちゐ人。父さ。ホ。ふめぐ。ちゐ来ニと。独引

それとなく
たせもち
所柴村を立て出そ
くつ屋もまく無ふ
の
あと
帆の見ふ波
まま
ら波のうくとも
少
見ともつうず。
の事。
たまひ
ものひませず。つは家へい来ましさ
ぞくうん
亡魂が。そも
しきれ
しを連て。此西へ人来ましを鍛ひあり。コレ奥州どの
くちぐち
ひごろ
あい
方
ぜんさく
ぜんさく
ぜんさく



なれど。さらに夢ひとつ夢みて。あふ後冊の冥土見酒
さらま
看ハ物ニ由あるべし。一ぱい盃を付ケて移さるゝ
ひき
雑引たゞこの春仲。酒と肴よりも急なるく
無八ハ
くそれハ物ニよりあるべし。丁ど遊後の御
どちそ
ある魁一ぱい盃ふ。移りゝ
べさく無他由是より酒を出ぞ。ろく
なれべ。クワハも一ぱい接ぎ姫とあつて。又お酒の肴
ぶ
るまをつひ出ぞ。ろ。あまもく。もふ測ありべ後あり
ト云ふ

べく無他人尚更ふ塩入うて。とれこまる秋生涯のあやうき。妻子をすて古里をはなれ。さらぐく高野の山にあひも。然ふ作りの高野仏。ふ作りの高野仏。ふ作りの高野仏。ふ作りの高野仏。十あふはをぞまれべ。せわしそ。金十ふあと。古里の方へ。ふ作りくくして。月日の立あるも仏付き。使りの方へ。母子とも。長年でも。長年でもくるぞと。母ひくるもの。高野のたよ。去年千の秋よりとん日まぐ。年部婆の。ゆしとへ差ある。小来ぐ。年の人表育して。表二



ていぜん　追善供養の吊らひ堂。外ふいらもありませう

ト　弁慶が勢ふるんを結ぶつて。さや日も美濃ふ及び

名れば。鍬八いとなを告三条ぢ戻りる。麦ふ

三条小ぢーの。玉屋といふ強布。西陣糸屋町の

きんち　金ぶが年より。くの糸影を仕入る客八。強ら

ゆきしたん　雪の下の木町ある。糸屋元七トいふ物あり。鍬八の数を

れん　年出入の百姓ふ。多く上糸の糸あれば今秋

さいん　赤ひと。惜ふ産ひて佛ちやとふ出りしが。ら鍬ずも

おもずかや
下殊教師町まで。奉ねる妻地ふ妻ひ。女ぞうの婦ちんどうひ。兵
そとい
衆部源の子ちぞちまるうすまなど。兄弟ーぢもむきさ巨く
りの清りして。兵ふ使まるうんむまちりふ小ふぐ。家のうんまりトいふ
ふ尤七いまふより。義部清きんぐある老ふ。孫ふいまぐ
ふぐりく吾家ふ一人の子まるれば。係る使まる兄子を学ひて表
育もまべそ。張源の雑ひふ。妻母の中ふ一子をも
ぢ伝ふるのありまんト。風とんふ妻れば。秋八ふ学ト
ぞうまま
言世ふ。妻他ふ人言せふ。妻他も学ぬ拝ふびする

紙糸盃左七ゞるもの れべ。行を淺しとれひとへ。吾妻
ち。大義大無のあんやぐ。ポ糸ゞ身のうへの造紙を
よろこび。年末稼ぎ淺ちる今を沼。赤紙まどだう
ぐ糸ひとへ。左七ゞ糸れべ。左七も小糸ゞ初め
立ちの。紙しうぐるを足て。大きふとよろこび。強金ゞ連
いりて。吾むすりとぞ。ふうり

風俗粹好傳卷中